

令和4年度 第2回ICT教育専門部会研修会 報告書

1. 目的 ICT教育において先進的な取組を行っている県内外の学校を視察し、共有することで、各校のICT教育の発展に寄与する。
2. 日時 令和4年11月21日(月) 13:30~16:00
3. 会場 静岡県私学会館 5階 大会議室
〒420-0853 静岡市葵区追手町9-26
TEL 054-254-8208
4. 日程 13:00~13:30 受付
13:30~13:35 開会 専門部長挨拶
13:35~14:20 視察報告
(1) 学校概要
(2) ICT教育
14:20~14:30 休憩・講演準備
14:30~15:30 講演
15:30~15:45 質疑応答
15:45~16:00 諸連絡・アンケート記入・閉会
16:00~16:30 専門委員打合せ等
5. 講師 静岡大学講師 遠山 紗矢香先生
演題 「ICT教育の現状と課題」
6. 参加者 ICT専門部会委員 静岡県内私立学校教員 21名

7. 内容

(1) 視察報告

10月7日に行った新渡戸文化中学校・高等学校の視察について、東海大学付属静岡翔洋高等学校・中等部・豊田理和専門委員及び、浜松学芸中学校・高等学校・矢野道弘専門委員から報告。

豊田専門委員からは学校概要として教育内容、施設等の報告があった。特に、「クロスカリキュラム」という自立型・認知型学習を目指した取組について報告された。

また、矢野専門委員からはICTの設備、端末、プラットフォーム等について報告があった。端末についてはiPadを使用しているが、iPadのメリット、また使用しているアプリケーション等に付いての報告がされた。

(2) 講演

静岡大学講師遠山紗矢香先生より「ICT教育の現状と課題」と題して講演を行った。

- ・ICTを活用する理由…ICTを使わなければならないこと、ICTで簡略化できることが多数あるから。
- ・一人1台端末によって、端末やアプリの機能が引き立つ授業ではなく、子ども自身が輝く授業が目標。

- ・九九を正確に再現することではなく、九九の知識を使って問題が解けることが重要。
- ・知識を大量に正確に記憶することよりも、得た知識を使用して未知の問題を解決する力、知識や技術を融合し、道具を駆使して新しい問題解決方法を作ることが重視されている。
- ・そのために子どもが解決したくなる「課題」、手がかりとなる「材料」、「考える」仕掛け、「さらなる疑問や気付き」の想定が授業に必要。
- ・プログラミングを用いた思考法（プログラミング的思考）の重要性。
- ・こういったことを実現させるために新たな授業観への転換とともに、ICT教育の導入が必要となる。
- ・一人1台端末は旧来の道具では不可能だったことが可能になる新しい道具、と捉える。
- ・実践例として、
 - ①静岡聖光学院「未来の教室」…災害、悪天候時のオンライン授業。
 - ②浜松市立雄踏小学校…総合的な学習の時間でオリジナルエコバッグを作成し、買い物に行く。手書きのデザインをICTで配置配色を試し転写して作成することで図工が苦手な生徒も作成できる。
 - ③Meetを使用したオンライン会議による学外の専門科の授業。
 - ④戸塚滝登先生の国際協働学習…富山県とアラスカで、影の長さを計測。計測結果による地球の大きさの計算。
 等の紹介。

7. アンケートより

- ・生徒に「何をさせるか」ではなく、生徒が「何をしたいか」が重要だと感じた。
 - ・ICT教育の必要性、可能性を確認できた。
 - ・主体的・対話的で深い学びとICTとの結びつきを感じた。
- 等、ICTを用いた新しい授業観への転換の必要性を実感したという意見が寄せられた。
- また、次年度へ向けてICTを活用した授業実践例、各学校の情報モラル教育やルール、将来的な機器やネットワークの変化等を知りたいという意見も多く、次年度研修への参考としたい。

報告者 副部長 静岡英和女学院中学校・高等学校教頭 石岡裕次郎